

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100056		
法人名	たけのこ株式会社		
事業所名	グループホーム佐尉郷の驛		
所在地	大分市大在中央2丁目8番11号		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4490100056-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館1F
訪問調査日	平成30年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達目指している事は、常にご利用者様を第一に考えて、向き合いそのご利用者様に合ったサービスを提供し、その方らしく生活していただけるよう努力しています。又地域の一人として交流や行事の参加にも心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大在中心部の住宅街や商店街が立ち並ぶ中に位置し、近くの川沿いに植えられた桜並木が利用者の散歩コースで、楽しみの一つです。玄関前に大きな桜の木が植えられ、蕾をつけていました。花が咲けば木の下にテーブルを出し、お茶会を毎日行い利用者の気分転換になっています。事業所はこの一年、利用者の入退居、職員の入れ替わりと過渡期にある中で、個別支援の注視と、心身の機能維持、転倒防止等職員同士が思いを一つに真摯に取り組んでいます。地域の一人として自治会に加入し、回覧板により地域交流を図ったり、地域の広報誌「マルコポーロ」に事業所のコーナーを設けてあり、事業所案内、認知症の啓発等を載せ、幅広く事業所を理解してもらうよう取り組んでいます。家族、地域、事業所で高齢化、重度化する利用者を支えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回のスタッフ会議にて各自読んでいる。又事務室に貼って意識している。	事業所理念はパンフレット、ホール、事務室等に貼り、各職員が常に意識できるようにするとともに、管理者は職員会議で理念がケアに実践されているか振り返りを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出来るだけ参加し保育所の園児に来苑して頂いたり、運動会にも参加している。	地域に根差して12年を迎え、同敷地内にある法人の有料老人ホームとの連携もあり、事業所や地域の行事で交流を図っています。地域の行事「七草粥」、保育園児との交流、幼稚園の運動会に招待され、利用者も競技(パン食い競争)に参加し楽しい一日を過ごしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域紙(マルコポーロに苑のコーナーがあり毎月記載、運営推進会議を通じて認知症への理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告(写真)、ヒヤリハット報告を通じて日常生活の内容を報告し活発な意見を受けサービス向上に生かしている。	行政、家族、地域、職員それぞれの代表等のメンバー10名程で2ヶ月毎に運営推進会議を開催しています。行事、事務報告、ヒヤリハット報告を主に行っており、メンバーの方から意見や助言が多く出されることと、これまで以上に地域交流を深め地域貢献をしたいと考えています。	会議は定期的には開催されていますが、より地域との連携強化やサービスの向上に繋がる助言や提言が得られるよう また、地域貢献が実現できることを期待します。事業所にAEDを設置していることや、相談窓口の活用等も報告されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じてしか顔を合わせていない。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員が毎回出席していますが、市の担当職員の出席は少なく(年1~2回)、相談事は電話で、市からの情報はFAX等で行われています。地域包括支援センター職員との協力関係が主になっています。	市の担当者とは積極的に連携を図る中で、運営推進会議に欠席された時は議事録を直接届けて、次回の出席を促したり、相談やアドバイスを頂く等、市役所に直接出向く機会を多く持たれ協力関係を築くことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、内部研修を行い理解してもらっている。玄関の施錠はしておらず現在拘束しないケアに取り組んでいる。	運営規定の中に「虐待防止」の条項があり、管理者が虐待防止対応責任者となっています。内部研修等で職員の理解と意識強化に繋げ研修後は各グループで反省会を行い、身体拘束廃止・虐待防止に繋がっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	担当弁護士による虐待に関する研修を行い法的な面からの理解も深めようとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の1部のみが理解している。これからまなぶ機会を持っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネージャーが中心となり契約時、解約時に十分な説明をし理解と納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族から施設、職員への意見は、いただけているが、外部への情報発信については把握していない。	月1回の請求書送付時に、各利用者の近況報告とともに手紙や電話等で情報交換を行っています。年1回行われる「開所祭り」後に家族会を開催し来所された家族に意見、要望を伺いサービスに反映させています。	面会出来ない家族や遠方の家族の意見等もサービスに反映できるよう、年1回でも「満足度アンケート」を取り意見、要望を出し易い機会を作る配慮を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議を開催しているが、運営に関する意見はほとんど出ない。又特別な機会も設けていない。	現在は職場改革の最中ということですが、一番大事なことは利用者と接する職員の意見です。個別面談の回数を増やしたり、スタッフ会議を通して、事業所及び職員の質の向上に忌憚のない意見、提案を出せる雰囲気をつくるのが、職員のモチベーションに繋がると思われます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在は職場改革の最中で、代表者、職員共に努力しているが全員がそれを実感しているとは言えない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にわ苑が費用を負担してくれている。内部研修はつき1回スタッフ会議時に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行っていない。今後行うべきと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人にとって居心地の良い場所となり、安心できるよう傾聴し思いを話しやすい様に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の思いを受け止め、情報を共有し、信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネを中心に事前に情報を共有し話し合い実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来る事や、手伝い等をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に良く話し、状況を説明しお互いが話しやすい関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努力しているが、加齢と共に友人や知人が少なくなって本人も分からない事がある。	家族、親類以外の面会が少なくなる中で、利用者の生活歴や家族の情報で、日頃の会話の中にも馴染みの関係継続の糸口も見られます。職員との馴染みの関係が大きくなることで、利用者が落ち着いて暮らせるよう支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ルクレーションなどを通じ努力しているが、病状や加齢により関わり合いが減ってきた。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努力している。時々ご家族も訪れる事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聴き、出来る限り本人らしい望む生活を支援している。	利用者がどのように暮らしたいのか、誰に会いたいのか等の理解をするために、日々の関わりの中で声をかけ把握に努めています。言葉にしづらい思いは、日々の行動や表情からくみ取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所する前の生活状況や家で暮らしていた時の様子をご家族や関係者に聴いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日誌や申し送り等で、1人、1人の心身の状態把握に努力しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その方の担当スタッフや、ご家族からの意見を聞きながら、自立支援に向けたプラン作成に努めている。	毎月の会議でモニタリングを実施し、3ヶ月毎にケアプランの見直しを行っています。担当職員、家族、医療関係者の意見をもとに現状に即したプランを作成しています。個人記録の中にサービスが適切に提供されているか、毎日チェックする項目があります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のユニット会議で、御利用者の情報を供有し、見直しや工夫する点、気づき等意見を出し合いプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今のところ積極的には取り組んでいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の公民館、保育園、幼稚園、公園、神社のスペースを利用。近所を散歩したり花を植えているお宅に見学にお連れする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人、ご家族の意向に添っている。受診は、ご家族が無理な場合職員が同行し経緯を説明し医師の指示を受けている。又定期的に受診している。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診対応が行われています。基本は家族対応ですが、家族の対応が無理な時は、事業所が対応し家族に報告しています。職員は口頭・申し送りノート等で情報を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、ケガ、便秘等看護師に報告、相談。必要であれば、早目に受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時必要な物は、病院、家族と相談し家族任せにせず対応している。お見舞いに行ったり、電話をしたりして状況を把握している。日頃から病院関係者に感謝の言葉を伝え良好なコミュニケーションが築けるよう努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調を崩された際に、万が一の場合や重度化され当苑での生活が困難になった場合について、ご家族やかかりつけ医と相談するようにしている。	入所時に説明し方向性を決めています。入院し重度化した場合はその都度、話し合いを持ち本人・家族の希望に添った支援ができるよう、医療と連絡を密に取りながら方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ADLを設置。緊急時の対応マニュアルを作成し各箇所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を行い、消火器の位置や避難経路、通報方法、避難場所、連絡網の確認を行っている。	防災訓練を定期的に行っています。災害時の避難対応の取り組みについて、施設として速やかな誘導を行う事を確認しています。併設した施設との連携や地域住民との連携が取れるよう今後の災害訓練に期待します。	事業所周辺には民家が多く、防災等に関しても地域住民との連携が密に取れる体制作りの構築に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前は、基本的に「〇〇さん」でお呼びしています。又トイレに長く座られる方には、バスタオルをお掛けしています。	一人ひとりの誇りを尊重した支援を、職員全員で取り組まれています。名前も「さん」づけで、お呼びすることを徹底しています。排泄時もひざにタオルを掛け、プライバシーの確保に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い方には、筆談で希望をお聞きしています。又飲み物提供する際には、メニュー表から選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼寝、レクリエーションの参加等は、本人に聴いて本人の意志を第一にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、毎日整容をして希望のある方には、洋服も選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	検食しながら職員もご利用様と会話をしながら食事をしています。重度の方が多く準備、片付けをされる方はいません。時々おやつ作りを手伝ってもらっています。	「楽しく食事を頂く」事を心がけ、会話をしながら一緒に食事をしています。高齢化に伴い食事介助の必要な方も、出来る所は自分で、時間を見計らい介助する等利用者のペースに合わせた、食事支援に取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の物を多く使用。多くの食材を使用するよう心がけている。健康チェック表を活用し食事、水分摂取量を毎日記録し支援に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。義歯をはずせる方は、はずして頂き、歯磨きの出来る方は、自分で磨いてもらっています。その他の方は、スタッフが介助しチェックしています。又訪問歯科を利用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様各自の排泄パターンを把握しトイレ誘導、声掛けを行い体力等も検討して支援している。	排泄介助の必要な方も多く、排泄チェックシートにもとづきタイミングを見ながら声かけし誘導しています。排泄の際には、寒さや羞恥心に配慮した支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に努めご利用者様が苦痛に思われないよう、飲み物を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在実践は、なかなか難しい状況です。しかし、出来る限りゆっくりと入浴して頂ける様希望を聞いたり、声掛けをしている。	入浴が、生活の中での楽しみの一つである事に重点を置いています。身体機能の低下に伴い、介護量も増えて行く中で、シャワー浴もありますが、少しでもゆっくりと浴槽の中で寛いで頂きたいとの思いと、安全面を配慮して、職員2人対応で入浴介助を行い、楽しんで頂けるよう取り組まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の様子を見て昼寝をしたり、就寝時間を把握したりして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能を理解しているのは一部ですが、ご利用者様各自の薬の一覧表を作成し理解しようと努力している。又症状に変化があった時は、ナースに報告し主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをして下さる方はいますが極少数です。又内容も限られています。歌やことわざ、風船バレー、散歩等のレクリエーションを活用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事には、出来るだけ参加しているが高齢重度化が進み遠方への外出は、段々難しくなっている。	身体機能の低下で車椅子の利用者が増す中、外出支援が少なくなっていますが、すこしでも外の空気を感じて頂けるよう、天気の良い日には庭でのお茶会を開き、外出気分や気分転換が出来るよう取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は、いません。お金に関する取り組みは、当苑ではないのが現状です。預かり金があり希望の物があればそこから購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの電話の取次ぎはしています。ご利用者様からご家族への手紙のやり取りは、ありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルであり、良い環境であると思えますが、少し殺風景な一面もあります。リビングの壁に季節を感じる貼り絵等をご利用者様に手伝って頂きながら作って貼っています。又希望に応じてエアコンの温度を調節したりしています。	シンプルな共用空間を演出していますが、季節が感じられるよう四季折々に工夫した壁面装飾に、取り組まれています。ほとんどの方がリビングで過ごされるので、室内空調に気を配り常に温度調節を行い快適に過せるよう取り組まれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様それぞれお気に入りの場所があり、普段は、そこで過ごされています。お1人になられる環境はないので、居室を利用される事があります。又1ヶ所に集まりゲームや風船バレー等する事があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り家具等は、ご本人愛用の物を使用しています。配置は、ご本人やご家族と相談し決めていきます。それで、「あ〜私の部屋だね。」と言って下さる方もいます。	本人愛用の、家具や使い慣れた物品を持ち込まれています。居室の名前は親しみやすいよう、地域の山の名前を付けています。	居室には、クローゼットがない為すべて視覚に入ります。オムツの置き場所にも工夫が必要です。また「生活臭がある」と家族からの指摘もあり改善に期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来る方には、声掛けを行い出来る範囲でやって頂き必要に応じて介助、見守り等行っています。常に声掛け、見守りは心がけています。		